

長野県下伊那地域におけるニホンイシガメ *Mauremys japonica* の記録

木下 進*

Some records of *Mauremys japonica* (Testudines) from southern part of Inadani, Nagano Prefecture
Shin Kinoshita*

*〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館

飯田市を含む下伊那地域において1994年から2003年までに情報および直接確認によって得たニホンイシガメの分布記録についてまとめた。この10年間の間に14件15個体のニホンイシガメを確認した。

キーワード ニホンイシガメ, 長野県, 下伊那地域, 分布

1. はじめに

本州に生息する在来の淡水性カメ類はスッポンを除くと、クサガメとニホンイシガメの2種類である。このうち長野県下伊那地域においては、クサガメの記録は、「阿南町などで繁殖している事例がある」(信州哺乳類研究会, 1978)という。しかし、筆者自身は確認したことも、生息確認の事例を聞いたこともなく、またこれまで発行されている下伊那地域の町村誌にも記録はない。このようなことから阿南町で記録されたクサガメは、自然分布個体であるかどうかは不明である。

一方イシガメは、昭和の戦前・戦後の時代(1950年代頃まで)には伊那谷の里山の湿地に多く生息していて、各地の小学校や農家の池に、針金などで係留され、飼育されているのをよく見かけた。ところが時代の推移とともに、ニホンイシガメの棲息地であった里山の棚田や湿地が、農業構造改善の名のもとに大きく攪乱、開発されてしまった。さらに水田や里山の放置・放棄、その上に過疎化等の多様な負荷が重なって、今ではニホンイシガメは、伊那谷において希少な種となっている。

筆者は、下伊那教育会生物委員会が2001年に発刊した「下伊那誌：生物編」に関わったことから、カメ類の確認に努めてきた。本報告では1994年から2003年までに、筆者が確認したイシガメの記録を報告する。

希少な生物の確認は、一人では調査しかねる。飯田市内の環境チェッカーの皆さんや、私を知る多くの心ある人達からも情報を頂いて、生息地の把握することができた。飯田市龍江の木下昭一・小木曾博介さんをはじめとする、多くのご協力頂いた方々に感謝する。

2. ニホンイシガメの記録

(1) 生息地

これまでに筆者が確認したニホンイシガメの記録を表1と図1に示す。

図1のように生息地は、天竜川東側地域(竜東)の中山間地に集中していた。竜東の生息地は、谷津地形が残っていて、水田の構造改善などが大規模に行われなかった山間地の湿田帯地である。天竜川西側地域(竜西)では、比較的里山環境が良い状態で残っている下條・三穂・上片桐地区で記録が見られた。

ニホンイシガメが生息確認された場所はどれも湿地や谷津地形が多く、ニホンイシガメの生息環境に適していると思われる。また、このような地域は、農業・化学肥料等の散布など生息に影響すると思われる人為的な圧力が、平坦部の水田地帯に比較して少なかったことなどが生息を維持してきた条件として考えられる。

(2) 個体の性別と甲羅サイズ

実見した中で甲羅サイズが測定できたのは3個体であった。

○飯田市立石の個体(No.6・図2)

♀, 甲長190mm, 甲幅175mm

♂, 甲長185mm, 甲幅175mm

○飯田市龍江個体(No.14)

♀, 甲長約180mm弱

矢部(1993)によれば、「一般に雌の甲長は、雌が約180mm, 雄が約110mmで、雌が雄に比べて特に大きい」となっているが、立石で確認した雄の個体は、この記述と比べるとかなり大きな個体であるといえる。

表1 下伊那地域でのニホンインシガメの確認記録

No.	確認地	年月	情報提供者*	♀・♂の同定	個体の確認	備考
1	飯田市龍江尾林	1994.8	環境チェッカー	不明	無	
2	飯田市千代毛呂窪	1994.6	環境チェッカー	不明	無	
3	飯田市三穂立石	1996.7	環境チェッカー	不明	無	
4	飯田市龍江安戸-紅葉川	1996.8	環境チェッカー	不明	無	
5	飯田市龍江尾林	1997.8	熊谷勝弘	♂	有	
6	飯田市三穂立石	2000.5	岩下友一	♂・♀	有	2 個体
7	高森町下市田	200.8	小池義人	不明	有	産卵
8	飯田市伊賀良中村	2001.7	美沢 勉	不明	無	
9	飯田市上久堅堂平	2001.8	中山二一	不明	無	
10	喬木村富田	2001.7	中川 勲	不明	無	
11	飯田市下久堅上虎岩	2001.8	池田健一	不明	有	
12	松川町生田部奈	2002.6	唐沢重人	不明	有	
13	飯田市龍江尾科	2003.7	木下昭一	♀	有	産卵
14	飯田市龍江雲母	2003.11	小木曾博介	♀	有	

* 敬称略

〈註〉

環境チェッカー：飯田市が委嘱している生物情報提供者の総称

個体の確認：「無」は情報のみ、「有」は筆者が直接個体を確認したもの

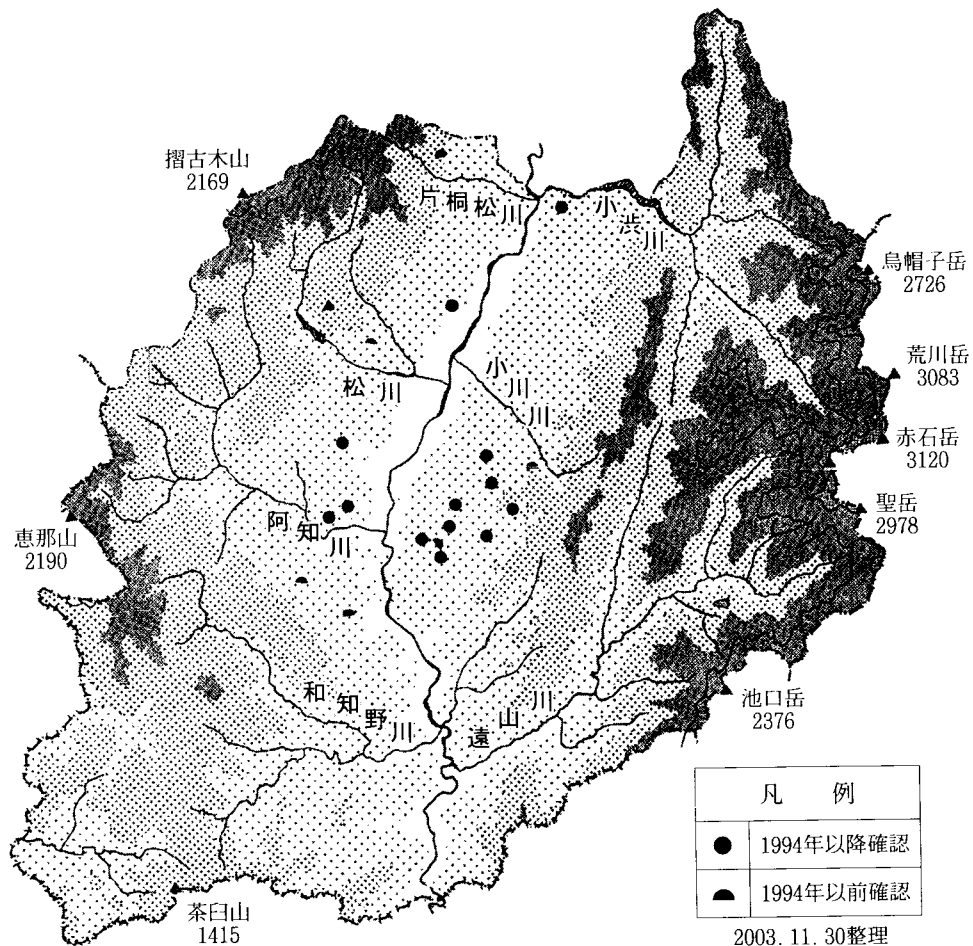


図1 下伊那地域でのニホンインシガメの確認記録分布図



図2 飯田市立石で確認したニホンイシガメ



図3 高森町で確認したニホンイシガメとその卵

(3) 産卵の記録

表1のように、高森町下市田と飯田市龍江では、捕獲後飼育していた個体の産卵が確認された。高森町下市田の事例(No.7・図3)では、2000年7月末に6個産卵したが、孵化しなかった。飯田市龍江での事例(No.13)では、2003年8月1日に4個産卵産卵したが、12月1日の時点で孵化していない。これら産卵された卵が孵化しなかった理由については不明である。

3. おわりに

産卵の事例を2例確認したことと、飯田市三穂において雌雄の個体を同時に確認したことなどから、細々ではあるがニホンイシガメが、生息を維持していることがうかがえる。しかし、筆者の経験からイシガメの生息数は急激に減少していると思われ、棲息地の孤立化が進むことにより、絶滅の可能性が加速度的に進む危険がある。

ニホンイシガメがわずかとはいえ、伊那谷に生息していることは、喜ばしいことである。この希少なニホンイシガメを、先祖から受け継いだ貴重な伊那谷の財

産としていつまでも保護していきたいものである。

引用・参考文献

- 足田努・亀崎直樹・安川雄一郎, 1996, カメ目. 日高敏隆監修「日本動物百科5:両生・爬虫・軟骨魚類」, 56-63, 平凡社.
- 木下進, 2000, 口絵解説ニホンイシガメ. 伊那, 48(10), 1-2.
- 松井孝爾, 1985, 日本の両生類・は虫類. 66-68, 小学館.
- 宮沢佳寛, 1991, カメ. 長野県自然教育研究会編「長野県自然観察事典動物編」, 382-383, 長野県自然教育研究会.
- 中村健児・上野俊一, 1963, 原色日本両生爬虫類図鑑. 77-84, 保育社.
- 下伊那教育会編, 2001, 下伊那誌生物編(カメ目). 340-342, 下伊那誌編纂委員会.
- 信州哺乳類研究会, 1978, 長野県動物図鑑. 174-178, 信濃毎日新聞社.
- 矢部隆, 1993, 水田にすむカメの生活史. 上野俊一ほか監修「動物たちの地球」, 100, 114-117, 朝日新聞社.